

手術部

1 構成員

| | 平成 14 年 3 月 31 日現在 |
|----------------|--------------------|
| 教授 | 1 人 |
| 助教授 | 1 人 |
| 講師（うち病院籍） | 0 人（ 人） |
| 助手（うち病院籍） | 3 人（ 3 人） |
| 医員 | 0 人 |
| 研修医 | 0 人 |
| 大学院学生（うち他講座から） | 0 人（ 人） |
| 研究生 | 0 人 |
| 外国人客員研究員 | 0 人 |
| 技官 | 3 人 |
| その他（技術補佐員等） | 1 人 |
| 合 計 | 9 人 |

2 教官の異動状況

- 数井 輝久（教授）（期間中現職）
- 横山 徹夫（助教授）（期間中現職）
- 三条 芳光（助手）（期間中現職）
- 森田 耕司（助手）（期間中現職）
- 金丸 哲也（助手）（期間中現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

| | 平成 13 年度 |
|---------------------|----------|
| (1) 原著論文数（うち邦文のもの） | 6 編（1 編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 7.24 |
| (2) 論文形式のプロシーディングズ数 | 5 編 |
| (3) 総説数（うち邦文のもの） | 1 編（1 編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 7.24 |
| (4) 著書数（うち邦文のもの） | 3 編（3 編） |
| (5) 症例報告数（うち邦文のもの） | 3 編（3 編） |
| (6) 国際学会発表数 | 4 編 |

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Nishizawa S, Oki Y, Ohta S, Yokota N, Yokoyama T : Which factor is most reliable to indicate postoperative endocrinological cure in cushing disease. Folia Endocrinologica Japonica 77 : 24-27, 2001.
2. Nishizawa S, Yokota N, Yokoyama T, Mukodaka H, Watanabe T, Hoshino T, Ueda Y : Prevention of postoperative complications in skull base surgery for nasal or paranasal sinus carcinoma invading the skull base. J Clin Neurosci 8 : 67-70, 2001.
3. Nishizawa S, Obara K, Nakayama K, Koide M, Yokoyama T, Ohta S. which protein kinase c isoforms are involved in the development of vasospasm after subarachnoidal hemorrhage? Acta Neurochir (Wien) 77 : 21-24, 2001.
4. Nishizawa S, Yokoyama T, Yokota T, Tokuyama T, Ohta S. Incidentally identified syringomyelia associated with Chiari I malformations : is early interventional surgery necessary?. Neurosurgery 49 : 637-641, 2001
5. 杉山憲嗣, 横山徹夫, 龍 浩志, 難波宏樹 : 第7～第12脳神経の術中モニタリング. 脳外誌 10 : 330-338. 2001.
6. Kazama T, Ikeda K, Morita K, Ikeda T, Kikura M, Sato S. : Relation between initial blood distribution volume and propofol induction dose requirement. Anesthesiology. 94 (2):205-10, 2001

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 横山徹夫, 中野今治, 高橋宏, 横地房子, 石川厚, 長谷川一子, 丸山哲弘, 大本堯史, 久野貞子, 板倉徹, 竹内重二, 田代邦雄, 澤村豊, 安部康二, 橋本隆男, 安藤肇史, 久永欣哉, 片山容一, 飛松省三, 島史雄, 渥美哲至, 亀山茂樹, 水谷智彦, 大槻泰介, 島本宝哲, 湯浅達彦, 川井充, 渡辺崇 : 「パーキンソン病定位脳手術の対象症例と除外基準」厚生省労働科学研究特定疾患対策研究事業. 2001. 1. 15. 107-118
2. 横山徹夫, 杉山憲嗣, 清水貴子, 渥美哲至, 宮島裕明, 溝口功一 : 両側視床下核電気刺激療法後, L-dopa を大量に減量しえた一例. 厚生省科学研究特定疾患対策研究事業「パーキンソン病の定位脳手術の適応と手技の確立に関する多施設共同研究」平成12年度研究報告書 : 82-83, 2001.
3. 三条芳光, 横山徹夫 : 麻酔関連情報請求システムを利用する人工心肺関連費用の電子請求, 手術部医学 23(2), 210-215, 2002

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 渥美哲至, 横山徹夫, 清水貴子, 杉浦 明, 伊藤充子, 白川健太郎, 大橋寿彦, 宮島裕明, 杉山憲嗣: パーキンソン病定位脳手術の自験手術成績: 第2報. 厚生省科学研究特定疾患対策研究事業「パーキンソン病の定位脳手術の適応と手技の確立に関する多施設共同研究」平成12年度研究報告書: 50-51, 2001.
2. 渥美哲至, 横山徹夫, 片山容一, 清水貴子, 杉浦 明, 杉山憲嗣, 金森雅男: 視床下核刺激術症例のアンケートによる満足度評価. 厚生省科学研究特定疾患対策研究事業「パーキンソン病の定位脳手術の適応と手技の確立に関する多施設共同研究」平成12年度研究報告書: 56-57, 2001.

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 横山徹夫, 杉山憲嗣: Parkinson 病の新規外科治療の展望: Parkinson 病患者における視床下核刺激治療の適応. あゆみ 196(10): 734-736, 2001.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 横山徹夫, 西澤 茂: 運動障害. 「脳疾患ケアの精神生物学的基礎」植村研一, 神郡 博, 櫻庭 茂 監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 東京. 2001, pp223-246.
2. 森田耕司, 風間富栄: インターネットエクスプローラ (MS-IE Ver3.0 以降) で動く TCI プログラム 麻酔集中治療とテクノロジー (2000) 克誠堂出版, 東京 2001, pp23-27

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 西澤 茂, 横山徹夫: エイズ痴保症とエイズ関連神経疾患. 「脳疾患ケアの精神生物学的基礎」 植村研一, 神郡 博, 櫻庭 茂 監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 東京. 2001, pp201-210.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 三叉神経痛に対する高電位治療器の治療経験

金丸哲也, 岩本竜明, 加藤孝澄, 五十嵐寛, 尾藤博道, 今村弥栄子, 佐藤重仁 日本ペインクリニック学会誌 8 巻 4 号 412, 2001

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. モルヒネ静脈内持続投与に抵抗を示した癌性疼痛の一例

岩本竜明, 青山奈歩, 五十嵐寛, 金丸哲也, 佐藤重仁 日本ペインクリニック学会誌 7 巻 1 号 80～81, 2001

2. 腹腔神経叢ブロック後に乳び胸を生じた一症例

高橋浩, 金丸哲也, 藤本久実子, 佐藤重仁 日本ペインクリニック学会誌 8 巻 2 号 99～102, 2001

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

1. Sugiura A, Shimizu T, Atsumi T, Katayama Y, Yokoyama T, Sugiyama K, Kanamori M: The evaluation of patients satisfaction after subthalamic nucleus (STN) deep brain stimulation (DBS) by questionnaire. Joint Congress of the 5th International Conference on Progress in Alzheimer's and Parkinson's disease and the 9th International Catecholamine Symposium. 2001. 3.31-5 (Kyoto, Japan).

2. Nishizawa S, Chen D, Yokoyama T, Yokota N, Ohta S: Endothelin-1 initiates the development of vasospasm after subarachnoid hemorrhage through protein kinase C activation, but does not contribute to prolonged vasospasm. 2001 American Association of Neurological

Surgeons. Annual Meeting 4/21-26, 2001 Toronto, Canada

3. Nishizawa S, Yokoyama T, Namba H: Is early interventional surgery necessary for incidentally found, asymptomatic syringomyelia associated with Chiari I malformation? The 3rd Biennial Japan-Korea Conference of Spinal Surgery 6/21-22, 2001, Yokohama, Japan
4. Yokoyama T, Sugiyama K, Nishizawa S, Yokota N, Ohta S, Tokuyama T, Namba H: The optimal stimulation site for chronic stimulation of the subthalamic nucleus in Parkinson's disease. 13th Meeting of the world Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery. 2001. 9.11-14, Adelaide, Australia.

4 特許等の出願状況

| | 平成 13 年度 |
|---------------|----------|
| 特許取得数 (出願中含む) | 2 件 |

1. 発明者：三条芳光，佐藤重仁，横山徹夫，出願人：科学技術振興事業団，種別：特許特願 2001-266555，パケット方式アナログ波形格納閲覧システム，医療情報閲覧方法，および医療情報保管方法，2001 年 12 月，
2. 発明者：三条芳光，塚越 昌一，井上正昭，出願人：科学技術振興事業団，種別：特許麻酔システム，特願 20001-370432，P1-17，2001 年 12 月

5 医学研究費取得状況

| | 平成 13 年度 |
|---------------------|-----------|
| (1) 文部省科学研究費 | 0 件 (万円) |
| (2) 厚生省科学研究費 | 0 件 (万円) |
| (3) 他政府機関による研究助成 | 0 件 (万円) |
| (4) 財団助成金 | 0 件 (万円) |
| (5) 受託研究または共同研究 | 0 件 (万円) |
| (6) 奨学寄附金その他 (民間より) | 0 件 (万円) |

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

| | 平成 13 年度 |
|--------------------|----------|
| (1) 特別講演・招待講演回数 | 1 件 |
| (2) 国際・国内シンポジウム発表数 | 17 件 |
| (3) 学会座長回数 | 3 件 |
| (4) 学会開催回数 | 0 件 |
| (5) 学会役員等回数 | 10 件 |

- (1) 学会における特別講演・招待講演

(2) 国際・国内シンポジウム発表

1. 横山徹夫, 杉山憲嗣, 赤嶺壮一, 難波宏樹: 臨床効果よりみた視床下核刺激治療のメカニズム. 第16回日本大脳基底核研究会. 2001. 7. 14-15. 三島
2. 杉山憲嗣, 横山徹夫, 難波宏樹, 赤嶺壮一, 西澤 茂, 横田尚樹, 徳山 勤, 太田誠志, 山口満夫: 視床下核電極設置に伴った幻覚・妄想症状 - L-dopa 感受性の増大?. 第16回日本大脳基底核研究会. 2001. 7. 14-15. 三島
3. 杉山憲嗣, 横山徹夫, 難波宏樹, 赤嶺壮一, 西澤 茂, 横田尚樹, 徳山 勤, 太田誠志, 山口満夫: 視床下核およびその周辺構造の semi-microelectrode による同定. 第40回日本定位・機能神経学会. 2001. 10. 22-23 (岡山)
4. 横山徹夫, 杉山憲嗣, 西澤 茂, 横田尚樹, 太田誠志, 徳山 勤, 難波宏樹: パーキンソン病視床下核刺激治療における最適刺激部位の検討. 第60回日本脳神経外科学会総会. 2001. 10. 24-26 (岡山)
5. 西澤 茂, 横山徹夫, 難波宏樹: 傍鞍部髄膜腫に対する手術アプローチについて. 第60回日本脳神経外科学会総会. 2001. 10. 24-26 (岡山)
6. 杉山憲嗣, 横山徹夫, 難波宏樹, 赤嶺壮一, 西澤 茂, 横田尚樹, 徳山 勤, 太田誠志, 山口満夫: 聴神経腫瘍手術モニタリングの実際. 第31回日本臨床神経生理学会サテライトシンポジウム. 2001. 11. 7 (東京)
7. 森田耕司: 心拍出量測定に関する知識のブラッシュアップ (招聘講演), 第1回麻酔科学ウインターセミナー, 2001. 3. 17 (北海道)
8. 森田耕司, 三条芳光, 横山徹夫: デジタルネットワークビデオ配信システムを使用した手術部運営管理, 第23回日本手術医学会総会, 2001年11月8日 (東京都)
9. 金丸哲也, 岩本竜明, 加藤孝澄, 五十嵐寛, 尾藤博道, 今村弥栄子, 佐藤重仁: 三叉神経痛に対する高電位治療器の治療経験, 第12回東海ペインクリニック研究会 2001. 5. 12 (名古屋)
10. 金丸哲也, 岩本竜明, 今村弥栄子, 五十嵐寛, 加藤孝澄, 尾藤博道, 佐藤重仁: 薬剤抵抗性異型狭心症に対する硬膜外脊髄刺激電極の有用性, 日本ペインクリニック学会第35回大会 2001. 7. 13 (岐阜)
11. 金丸哲也, 岩本竜明, 三条芳光, 佐藤重仁: 浜松医科大学手術部における薬品管理システム, 日本臨床麻酔学会第21回大会 2001. 10. 20 (横浜)
12. 三条芳光, 佐藤重仁, 金丸哲也, 横山徹夫: 薬剤を含む麻酔関連請求コスト完全電子化システムへの道, 日本臨床麻酔学会第21回大会 2001. 10. 20 (岐阜)
13. 糟谷琢映, 三条芳光, 佐藤重仁: 音声可視化ソフトを用いた呼吸音の三次元表示モニタの可能性について. 日本臨床麻酔学会誌 21(8), 2001, S252 日本臨床麻酔学会第21回大会 2001. 10. 20 (岐阜)
14. 三条芳光, 尾藤博通, 佐藤重仁: 新しい全自動麻酔システム制御のための基礎理論. Journal of Anesthesia 16, 2002, 273
15. 猪俣 豊, 田中博之, 三条芳光, 佐藤重仁: 呼吸音可視化モニタの臨床的有用性. Journal of Anesthesia 16, 2002, 188. 日本麻酔学会 2002. 4 (福岡)
16. 谷口美づき, 五十嵐寛, 栗田忠代士, 三条芳光, 加藤孝澄, 佐藤重仁: ECT (electrical convulsion

therapy) における BIS (bispectral index) 値の変動. Journal of Anesthesia 16, 2002, 330.
日本麻酔学会 2002. 4 (福岡)

17. 風間富栄, 三條芳光, 五十嵐 寛, 佐藤重仁: 麻酔導入および術前外科準備必要時間の検討.
Journal of Anesthesia 16, 2002, 447. 日本麻酔学会 2002. 4 (福岡)

(3) 座長をした学会名

1. 横山徹夫: 第 12 回関東機能的脳神経外科カンファレンス 2001. 4. 7 (東京)
2. 横山徹夫: 第 31 回日本臨床神経生理学会サテライトシンポジウム. 2001. 11. 7 (東京)
3. 森田耕司: 第 23 回日本手術医学会総会一般講演. 2001. 11. 8 (東京)

(5) 役職についている学会名とその役割

- 東海頭蓋底外科研究会幹事 (横山徹夫)
- 日本慢性頭痛学会評議員 (横山徹夫)
- 関東機能的脳神経外科研究会幹事 (横山徹夫)
- 日本脳神経外科学会評議員 (横山徹夫)
- 日本顔面神経研究会評議員 (横山徹夫)
- 脳神経手術モニタリングワークショップ (幹事)
- 日本医科器械学会臨床工学技士専門資格制度検討委員会委員 (森田耕司)
- 日本麻酔・集中治療テクノロジー学会評議員 (森田耕司)
- 日本静脈麻酔・インフュージョンテクノロジー研究会評議員 (森田耕司)
- 日本ペインクリニック学会評議員 (金丸哲也)

8 学術雑誌の編集への貢献

| | 平成 13 年度 |
|---------|----------|
| 学術雑誌編集数 | 0 件 |

9 共同研究の実施状況

| | 平成 13 年度 |
|------------|----------|
| (1) 国際共同研究 | 0 件 |
| (2) 国内共同研究 | 4 件 |
| (3) 学内共同研究 | 1 件 |

(2) 国内共同研究

竹前 忠 (静岡大学電子科学研究科) 「磁気併用電気インピーダンス法による脳循環測定」

竹前 忠 (静岡大学電子科学研究科) 「脳深部刺激治療患者における fMRI 検査の安全性」

富田英幸 (株式会社ニッショー総合研究所) 目標値制御コントロールシステムを内蔵するインフュージョンポンプの開発

柴 晃成 (株式会社 GE マルケットメディカルシステムズ) 自動麻酔記録装置 VOCAAR for Vigilance 開発

(3) 学内共同研究

磯田治夫, 阪原晴海 (放射線科) 「脳深部刺激治療患者における f-MRI 検査の安全性」

10 産学共同研究

| | |
|--------|----------|
| | 平成 13 年度 |
| 産学共同研究 | 1 件 |

1. 科学技術振興事業団の委託開発課題「呼吸代謝モニター付き麻酔システム」の開発
泉工医科工業(株)麻酔プロジェクトメンバー および 三条芳光ほか

11 受賞 (学会賞等)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 「脳深部刺激治療患者における f-MRI 検査の安全性」

視床下核および視床に脳深部刺激電極を設置されたパーキンソン病患者における f-MRI 検査の安全性をモデル回路を用いて安全性の基礎研究を行ってきた。現在までに当院での f-MRI を含む SPGR, FSE シークエンス下で刺激発生装置にかかる磁場角度を 0 度から 90 度まで変え, 刺激発生装置そして電極におよぼす影響の調査が終了した。いずれのシークエンスでも電極先端部での熱の発生は見られなかったが, FSE シークエンスで刺激発生装置が磁場に平行 (0 度) では, 刺激発生に変調をきたし突然に off となりついで on となる現象が見られた。f-MRI シークエンス下では異常は見られず, 脳深部刺激を用いた f-MRI による脳機能賦活検査の安全性の基礎データが得られた。

(横山徹夫, 杉山憲嗣¹, 赤嶺壮一¹, 難波宏樹¹, 磯田治夫², 阪原晴海², 竹前 忠³) 1: 脳神経外科 2: 放射線科 3: 静岡大学電子科学研究科

2. 「パーキンソン病視床下核刺激における最適刺激部位の検討」

視床下核に脳深部刺激電極および胸部皮下に刺激発生装置の埋め込みの完了したパーキンソン病患者 17 例において, 電極の 4 つの刺激コンタクトを各々単極刺激を行いパーキンソン病各症状 (振戦, 固縮, 無動症, 歩行, 姿勢反射) を UPDRS スコアの変化を検討した。各刺激電極の位置と臨床症状の改善度の比較では, 姿勢反射を除くすべてのパーキンソン症状は, 視床下核の背側部で前交連-後交連を結ぶライン直下に位置する電極刺激で最大改善効果が得られることが判明した。姿勢反射に関しては電極の位置による刺激効果の差は見られない。今回の検討により, 視床下核刺激治療においては, 視床下核の背側部で前交連-後交連を結ぶライン直下に位置する電極を刺激することにより最大臨床効果が得られることが明らかとなった。

(横山徹夫, 杉山憲嗣¹, 西澤 茂¹, 赤嶺壮一¹, 難波宏樹¹) 1: 脳神経外科

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. パケット方式アナログ波形格納閲覧システム, 医療情報閲覧方法, および医療情報保管方法, 発明者: 三条芳光, 佐藤重仁, 横山徹夫, 出願人: 科学技術振興事業団

2. 発明者：三条芳光，塚越 昌一，井上正昭，出願人：科学技術振興事業団，種別：特許 麻醉システム

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道